

消えない灯

ともしび



ヤマザキマリ

キャラクターデザイン

キャラクター紹介

キャラクターデザイン：ヤマザキマリ

Character

なぜか俺の人生が
大変な時に君に
会う気がするな



火神護

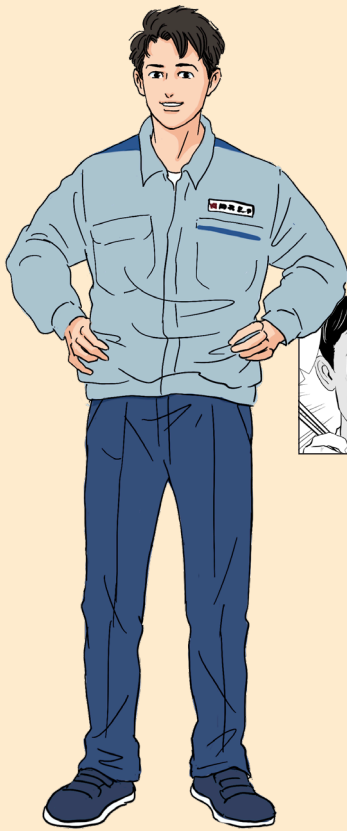
かがみ まもる

えらい！
私の
教育の成果が
表れたね



中之島灯

なかのしま あかり



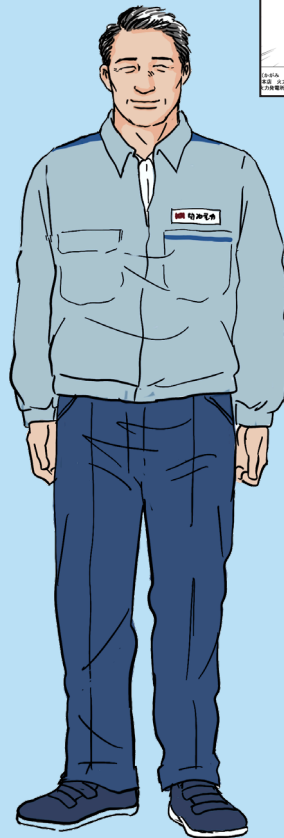
西関太郎

にし かんたろう

某火力発電所勤務の2年目社員。
大阪(南港)生まれ。

漠然と「人の役に立つ仕事がしたい」と思い、
関西電力に入社。
火力事業に興味を持ったのは配属後のため、
火力事業の歴史についてはまだ詳しくない。
前向きで人当たりが良いが、思った事を
すぐに口に出してしまうところがある。
素直で裏表のない性格なので、多くの人から
可愛がられる。

ちょっと僕も
関電の歴史を知って
おきたくて



1996年に入社してから火力一筋。
現在は本店 火力事業本部の部長で、
某火力発電所には出張で頻繁に
来ている。
兵庫(姫路)生まれ。

どんなことが起きても動じない
強いメンタルと、大らかでゆったりとした
人柄から、周りの社員からの信頼が厚い。
過去多くの重要プロジェクトに携わって
きたため、一部の社員からは火力部門の
レジェンドとして知られている。
26歳の息子がいる。



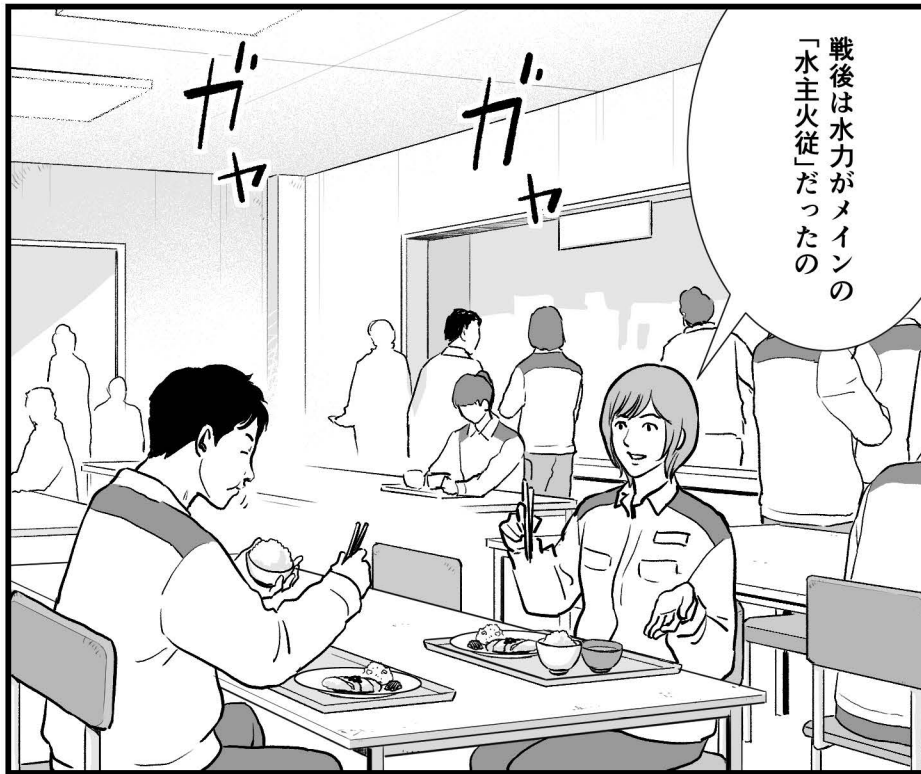
某火力発電所勤務。
入社4年目で西の教育係。
京都(舞鶴)生まれ。

真面目な性格で思慮深く頭の回転が速い。
学生時代から火力事業への憧れがあり、
火力事業の歴史についても勉強熱心。
火力部門のレジェンドと呼ばれる火神の
ことを尊敬している。
奔放な性格の西に手を焼きながらも、
優しく見守っている。



消えない灯

ともしび



戦後は水力がメインの
「水主火従」だったの



関西電力
某火力発電所内



もちろん聞いてますよ
中之島さんにはいつも
勉強させてもらってます

西 関太郎
関西電力 某火力発電所勤務の
2年目社員

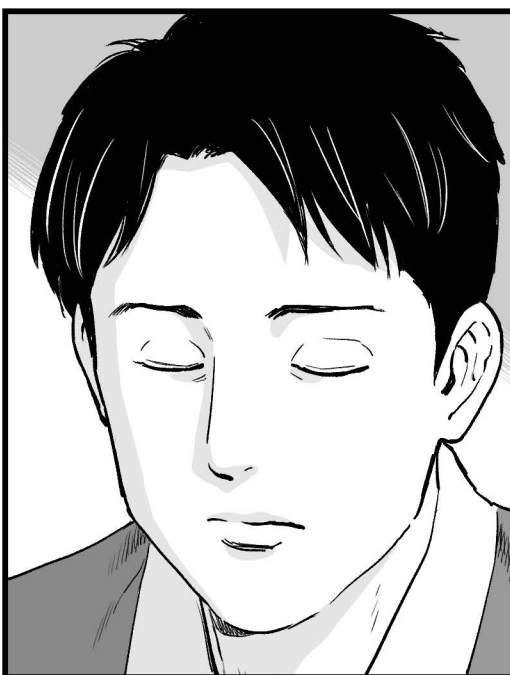


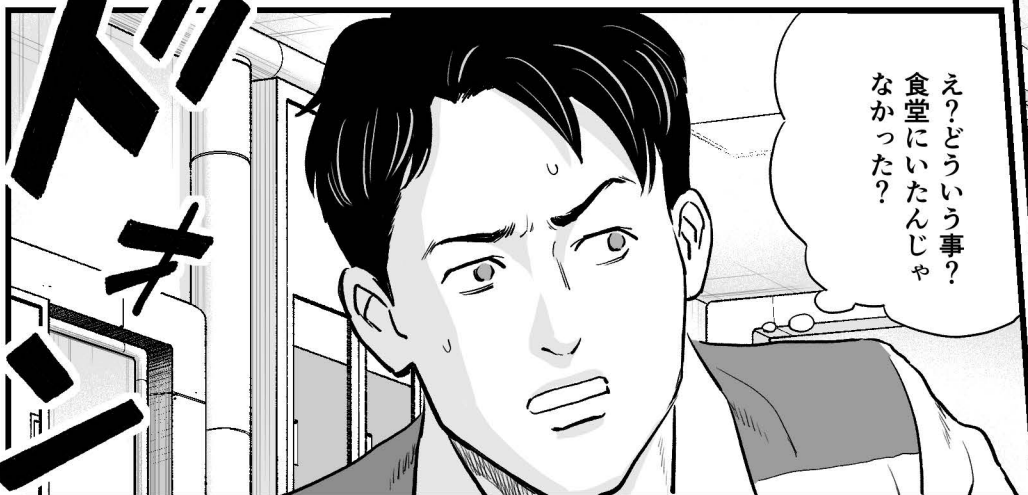
聞いている？
西君

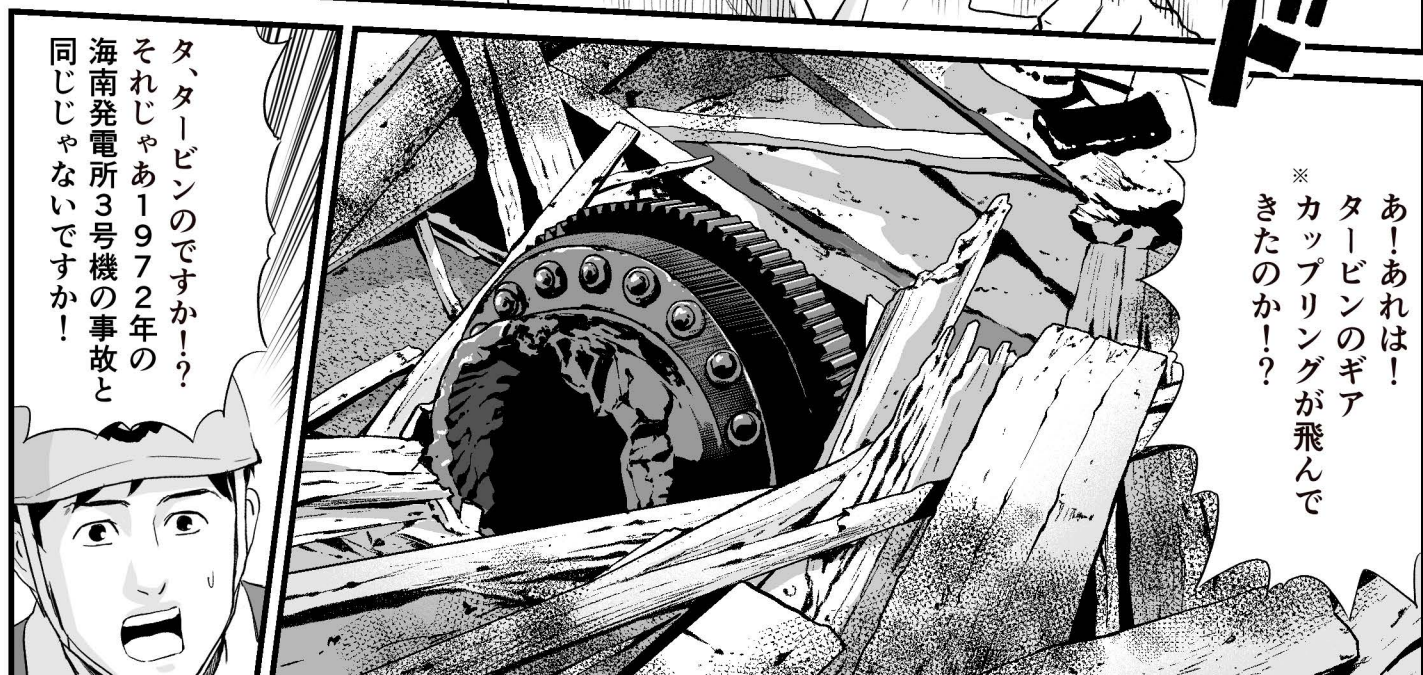
中之島 灯(あかり)
関西電力 某火力発電所勤務
入社4年目で西の教育係









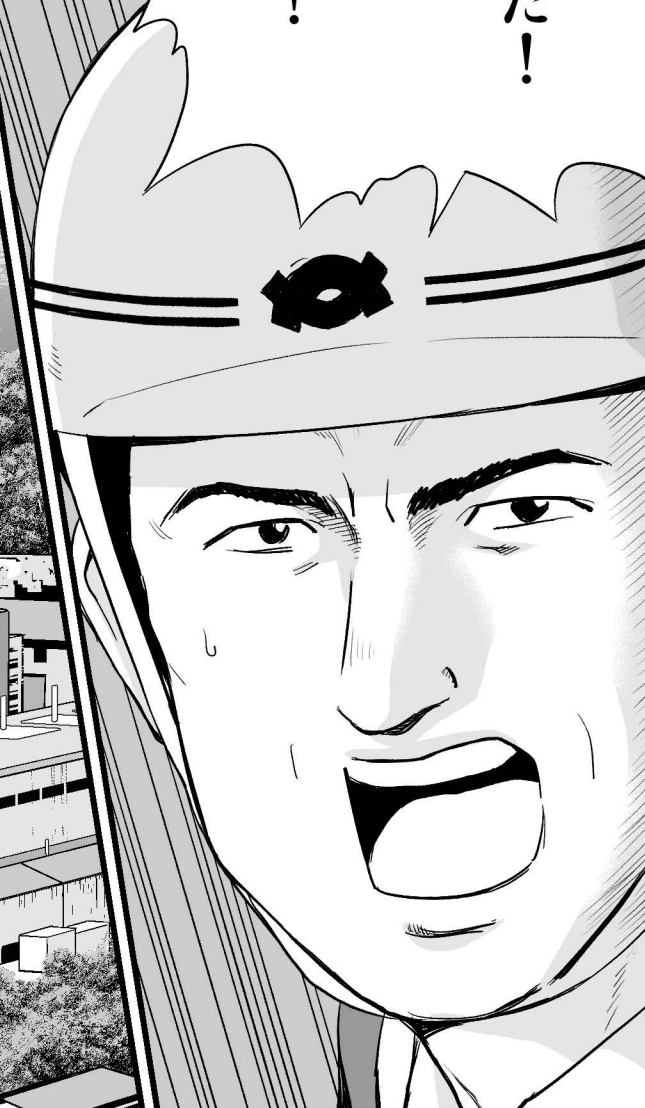


※歯車型(ギア)の軸と軸を連結する継手(カップリング)

消えない灯

ともしび

同じってなんだ！
いま、ここが
1972年の
海南発電所だ！



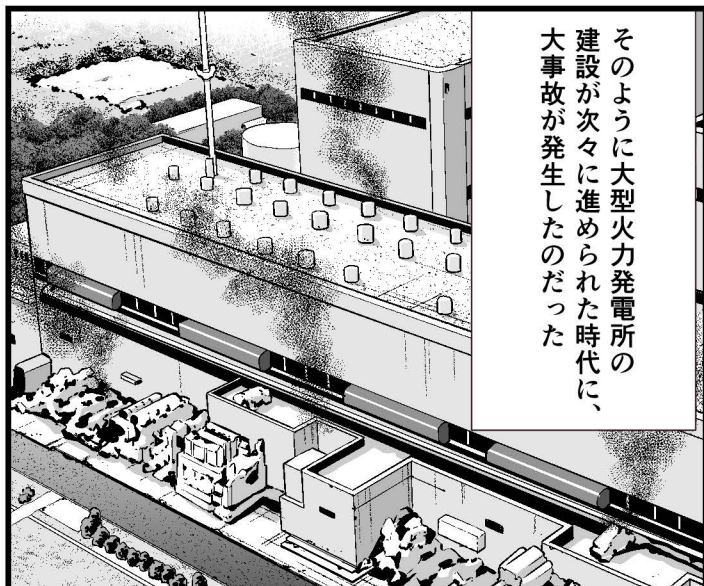
1960年代後半、
大阪万博の開催を控え、
関西圏の電力需要は
大きく伸びていた

このような電力需要の
高まりに対処すべく、
適地が少なく建設期間が
長い水力ではなく、

大容量で高効率な
火力発電所が求められるなかで、
海南発電所3号機は建設された



そのように大型火力発電所の
建設が次々に進められた時代に、
大事故が発生したのだった



どういことだ…
1972年？
タイムスリップ
したってこと？



消防には
連絡したのか？

はい！消防通報済みです
ドンドンという機械の
破壊音と思われる異常音が発生し、
タービン・発電機、励磁機の各部が
飛散するとともに火災が発生しました

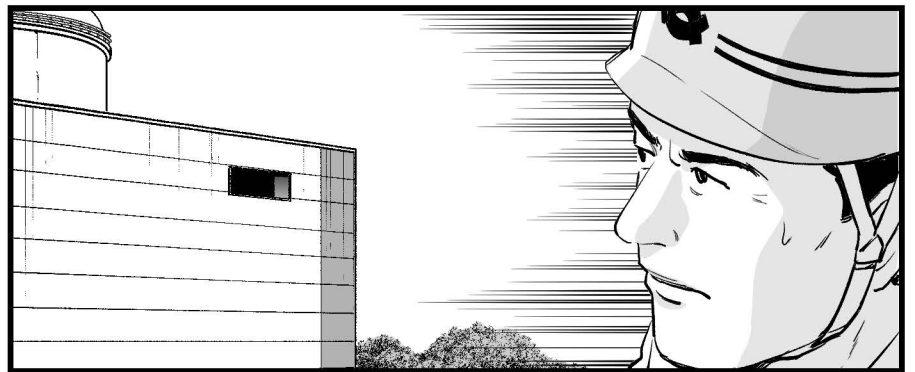


まもなく黒煙が
タービン室内に
立ち込め大火災に
進展したようです！

けが人はいないか？
全員無事なのか？
原因はどうだ？

今確認中です！





そして
この男は所員全員の
安否確認を指示し

消火活動の準備
被害状況の情報収集を
行いつつ―

消防署と情報を共有
しながら、事態鎮静化に
向け消防活動を支えた

関西電力

14時ころに発生した
火災は16時12分に
鎮火した：

従業員全員の
無事も確認でき
発電所は落ち着きを
取り戻しつつあった：

けが人がいなくて
よかったですね

まったくだ…

今度俺によ、
孫が生まれるんだ

え？ああ！…
おめでとございます

名前も
もう決めてある

『^{まもる}護』だ

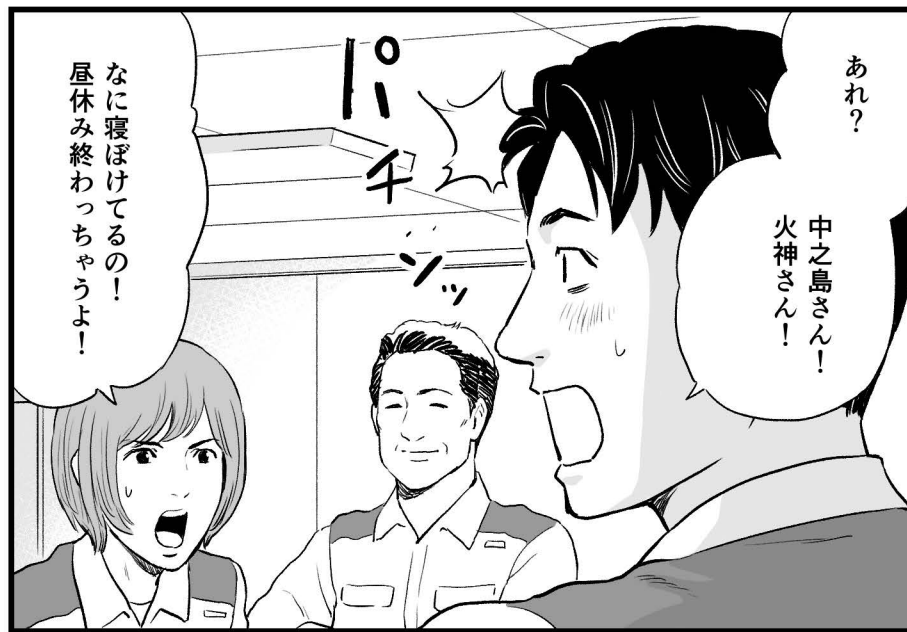
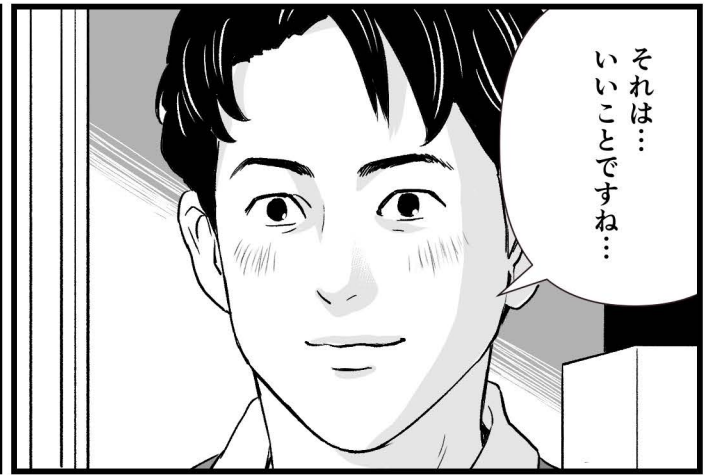
かがみまもる
火神護

周り全てを支え、
護ってあげられる男に
なってほしいんだ

え？という事は
この人はマモさんの
おじいさんなのか…

こんな事故も未然に
防げるようになりたいが…
まだまだ積み重ねは
必要らしい：

だが見てろ、
護って名付け親に
恥ずかしくない
男になるつもりだ



この海南発電所3号機建設中の
タービン事故では幸いにも
人的被害は無かった

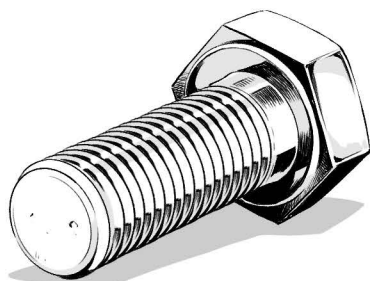
当時現場にいた社員は語る
『大型回転機のもつエネルギーの
凄まじさを見せつけられ、
魂の抜ける思いがした』と



事故後、1996年製作の回顧録の
中で、北田副社長(当時)は
『大型回転機は猛獣に似ている
油断すると野生をむき出しにして
襲い掛かることがある』
と語っている。



『堤防の決壊もアリの穴から』
という言葉が示す通り、この事故は
たった一つのボルトの締め付け
不良によるわずかな軸振動の
異常から始まったものである



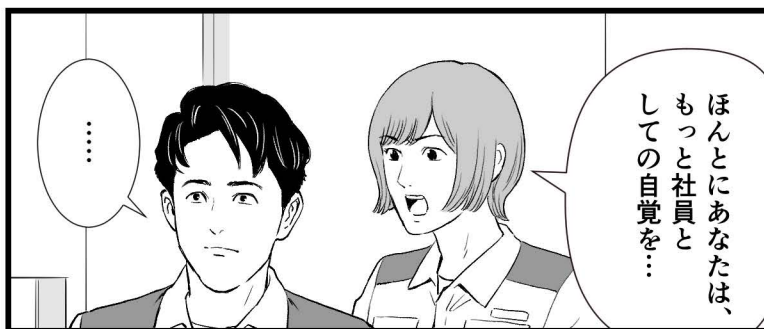
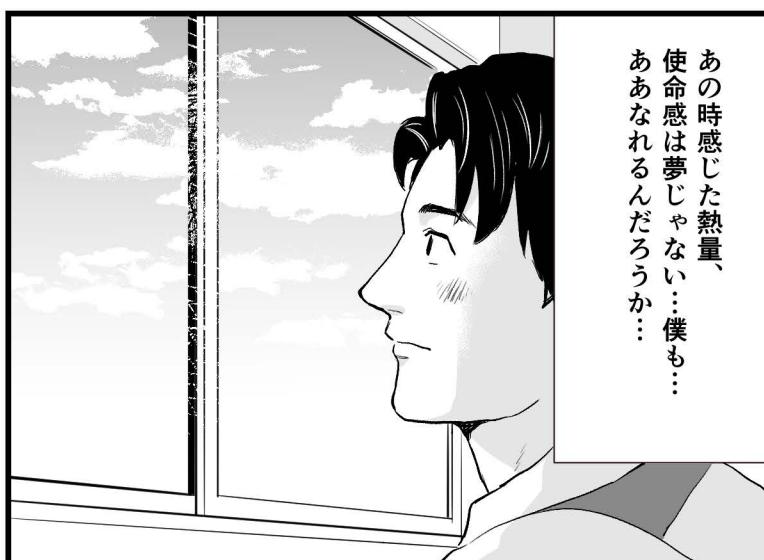
僅かなミスも命取りとなる
火力発電所の運営は、
そこで働く者の
確かな知識と技術、

そして何より、電気を安定して
送り続けるという強い使命感に
支えられている。
この事故を受け、1/100mmの
異常兆候も見逃さない、より
一層の管理の強化につなげている

電力の安定供給への強い
覚悟を持った人だった：



あの時感じた熱量、
使命感は夢じゃない…僕も…
あなれるんだろうか…



ほんとにあなたは、
もって社員と
しての自覚を…

…

